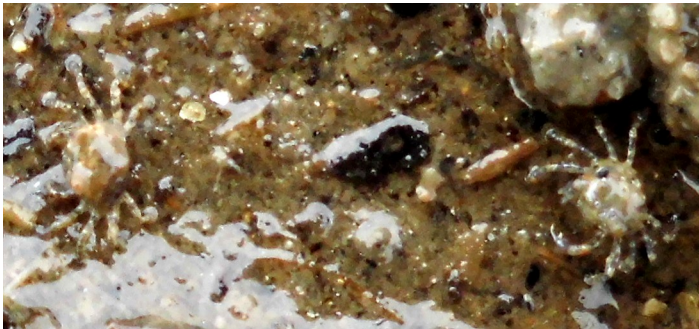


カニでにぎわう干潟

■多くの稚ガニ

今回の調査では、様々なカニを観察した。甲幅2mm程度のコメツキガニの稚ガニが数多く見られた(Fig.1)。ガザミは甲幅4～7mmの個体が観察された(Fig.2)。柔らかい泥地ではヤマトオサガニ(Fig.3)が、固めの泥地ではチゴガニ(Fig.4)が数多く観察され、それぞれが好む環境が維持されているのが確認できた。

昨年のこの時期には、マゴチの稚魚を数多く採集したが(レポートNo.274参照)、今回の調査では採集することができなかった。ほかの魚類も採集することはできず、ボラの稚魚を観察した程度であった。調査時の潮位が高く、魚類が生息する場所まで入れなかった可能性も考えられる。



(Fig.1 コメツキガニ)



(Fig.2 ガザミ 甲幅5mm)



(Fig.3 ヤマトオサガニ)



(Fig.4 チゴガニ)

■サギの群れ

宮城野区港2丁目3(キリンビール仙台工場南側)に多くのサギが集まっていた。震災前は蒲生干潟に多く集まっていたが(レポートNo.1参照)、現在その場所にはまだ戻ることはできていない。樹木の生長には時間がかかり、環境の回復にはまだまだ時間がかかることを感じさせる。



(Fig.5 サギの群れ)